

# 五重亜台

五重中 学校だより

第9号

令和3年10月27日

(文責 高木)

## 忘れられない 中三の一日

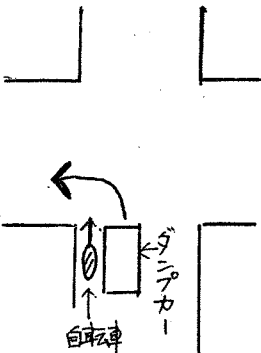
中学生の皆さんに、何か話をしてあげたい時に「自分が中学生だ、た時、どんな事を考えていたのか、どんな事をしていたのか」という事をよく思い出そうとします。しかし、そのほとんどは忘れてしまっていて思い出すことができません。ただそんな中、10月30日だけは、忘れることができない日です。

10月30日、その日は日曜日でした。この日の前に厚生大会があり、私は友達と同じ場所へ絵をかき、30日(日)にもう一度その場所へ絵を仕上げようという話になりました。ただ、私は日曜日に法事があったので、その誘いを断りました。



30日(日)の午前11時ごろだったでしょうか。家に電話がかかってきました。「松田が死んだばい。」(松田というのが、私と一緒に絵をかいていた友人です。)交通事故だったのです。交差点で左折するダンプカーにまきこまれ、即死だったという連絡でした。

この電話をうけた時、体が凍りました。涙が出るということもなく、ただ何となく



うけているのか、わからない状態でした。言葉が出ないという状態で、体全体がこたまったのです。

今考えると、中三

の10月30日で人生が終わった松田。さぞかし無念だったろうと思います。私も、もっとも、とやられたか、た事もたくさんあったろうにと思います。足が長く、運動神経もすごくよかったです。松田、高校進学についても共に語り、冗談もいろいろあり、一緒にいって楽しい友達でした。

交通事故による死者は、日本では一日あたり8人くらいだと言われています。5日間が4人、つまり1クラスの子供が死んでしまつて数です。

当り前のことですが、事故にあおうと思つて、事故にあう人などいないのです。みんな「自分は大丈夫だろう」と思っているから事故にあつてしまつたのです。

命は、たつた一つ。しかも、一回きりです。最近のニュースでは、自ら命を断つてしまつたという悲しいニュースもあります。いろんな事情があるとは思いますが、命を断つていい事情はありません。

命は、たつた一つ、しかも、一回きり。一度断つてしまった命は、やりなおしがきかないのです。

あの事故から数年、その間にどれだけの人が涙し、祈り、事故現場に花をたむけたことか。しかし、どんなに悲しんでも、思い出しても松田は帰つてこないのです。だからこそ、私達は自分が生きているこの時を大切にしなければならぬと思つたのです。

### 百聞は一見に如かずのつづき

「百聞は一見に如かず」ということわざがあります。ある事から物についての情報を、どんなにたくさん聞いたり、本を読

み学んでいたとしても、実際に見たり触ったり体験したりして学ぶことには、およばないという意味です。つまり、教室の中だけで学習するのではなく実際に体験することが重要という事です。その意味で、一年生の一日研修や、二年生の修学旅行は、とても大切な行事といえます。

ところで、この「百聞は一見に如かず」に「つづき」があるのは知っていますか？ 諸説ありますが、この「つづき」は「百聞は一考に如かず」だと言います。どんなに見学や体験をしたとしても、そこで考えるということが無ければ、その学びの成果は半減するということ味です。

これから行う体験的な学習を、単なる経験だけにするのはなく「なぜだろう」「どうなってるんだろう」「どんな気持ちだったんだろう」と少し立ち止まって考えてみましょう。きっと、より一層充実した学習となることでしょう。

※ 11月12日の午後、ビジネスセンターファクトリー代表の原口環子氏の講演会を行います。原口氏は熊本出身で、私は今回講演を聴きましたが、中学生にも大人にも聞いてもらいたいお話です。ぜひ、都合をつけて参加してください。後日PTAより案内プリントを配布します。